

中東人道危機に対する支援活動報告

平成 27 年度



©Neményi Márton/ハンガリー赤十字社

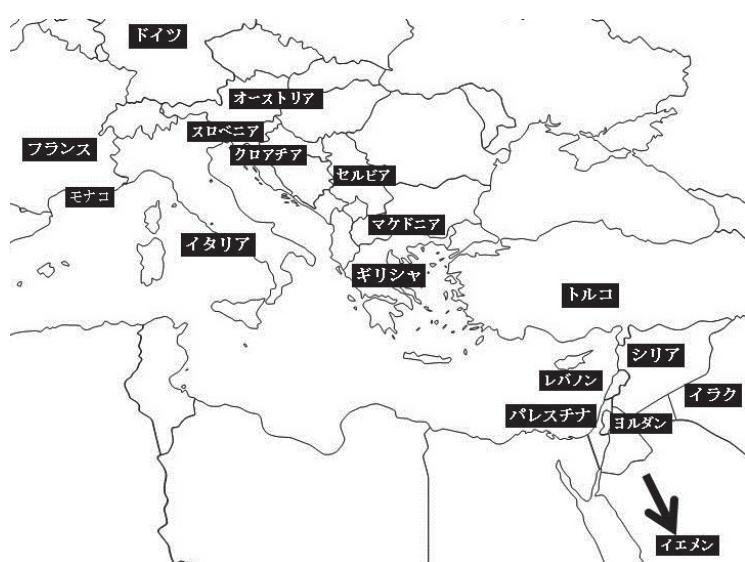
壊れゆく生活
生きるいのち

支える手

シリアをはじめ、中東諸国では人びとの幸せな生活が、一瞬にして崩れるような厳しい状況が続いています。

生きるために、希望を見つけるために、そして子どもや家族を守るために、砂漠を歩き、国境を越え、海を渡る人びとがいます。

赤十字は、そのすべての人びとの尊厳を守り、あらゆる場所で人びとの生きる力の支えとなるよう、手を差しのべ続けます。



©IFRC

毎日何千人もが安全と希望を求めて海を渡るエーゲ海。ギリシャ、イタリア、マケドニア、セルビア、クロアチア、ハンガリー、スロベニア、オーストリア、フランス、モナコ、ドイツなどでは、現地赤十字社が着の身着のまま到着する難民や移民を出迎え、毛布や温かい食料、水、医療を提供しています。

中東人道危機への救援にご支援ください

日赤 中東

検索

<http://jrc.or.jp/contribute/help/cat751/>

日本赤十字社 組織推進部 海外救援金担当 TEL: 03-3437-7081

ゆうちょ銀行・郵便局

口座番号 00110-2-5606

口座名義 日本赤十字社

クレジットカード

・VISA・MASTER・JCB

・AMEX・DINERS 対応

※銀行振込は三井住友銀行、三菱東京 UFJ 銀行、みずほ銀行もあります。
詳しくはウェブサイトでご確認ください。

活動報告

シリア

「中立」を貫き、全土へ支援

2011年より紛争の続くシリア。紛争が複雑化する一方、市民の生活は日々厳しさを増しています。シリア赤新月社は、世界中の赤十字および国連や他人道支援団体からシリアに届く支援を、中立を貫くことで政府側、反政府側の双方の地域に住む人びとに届けられています。2016年1月には、長期間紛争当事者たちに包囲され出入りできなかった地域に、紛争当事者との交渉の末、食料や医療を届けました。過酷な体験をした子どもたちへのこころのケア、栄養



長期間包囲されて支援の受けられなかつたマダヤに支援が入った際、物資受け取り登録を行う人びと©シリア赤新月社

補給、また水道管の修復などライフラインの復旧も行っています。シリア国内には、現在もなお650万人が家を追わされて国内避難民となり、1350万人以上が支援なく生活できない状況の中暮らします。

レバノン

日赤中東地域代表事務局設置

レバノンは、多くの難民を受け入れている一方、政府は難民キャンプの設立を認めておらず、多くの非公式なテント村があります。レバノン赤十字社は、シリア国境付近のベカ高原の当局などの公認なく増加していった無数の非公式居住村で、衛生事業や物資配布を行っています。2015年9月、日赤はレバノンの首都ベイルートに中東・北アフリカ地域代表事務局を開設し、要員1人を常駐させています。また、同年10月から2016年1月まで、赤十字国際委員会を通じて看護師1人をトリポリの病院派遣し、紛争だけがをした人の治療にあたりました。



トリポリの病院で活動する池田看護師

パレスチナ

長期にわたる紛争からの復興支援

2014年7月から8月にかけて発生したイスラエルとの武力紛争では、爆撃での一般市民の死傷者は全体のおよそ70%にも上るなど、多くの市民が巻き添えになりました。



救援物資を受け取るパレスチナの子ども©パレスチナ赤新月社

パレスチナ赤新月社は、緊急処置が必要な人びとに医療や救援物資を届けるとともに、長期間にわたる政情不安によるトラウマや心労を抱えた人びとにこころのケアを届けています。

現在、日赤職員が、赤十字国際委員会代表の1人として、刑務所を訪問し、紛争捕虜や被拘束者への拷問や虐待を防ぐ活動を行っています。

ギリシャ

凍える海を渡る人に温かい食事を

2015年1年間で、85万人が地中海を渡りギリシャに漂着しました。その半数以上はシリア難民です。10月が最も多く、1日に6800人もの人が漂着していました。冬になつても流入する人は途絶えることなく、何千人の人が凍えるような海を渡っています。ギリシャ赤十字社は、着の身着のままだり着いた人びとの体を、すぐに毛布や防寒具で温め、体調の悪い人を診療します。そして、水や温かい食料、衛生用品などの配布を行い、難民や移民のいのち



多くの難民が海から到着するギリシャのレスボス島で、赤十字ボランティアからアルミの防寒ブランケットをかけてもらう子ども©Jarkko Mikkonen/フィンランド赤十字社

を守ります。赤十字は、ヨーロッパに渡る移民・難民問題に対し、これまでに、ヨーロッパ28カ国で約7万4000人のボランティアを動員、60万人以上の人びとを支援しました。現在もなお、祖国を逃れてきた人びとを毎日支援しています。

ヨルダン

難民受け入れコミュニティへの支援

ヨルダンは人口が約600万人の国でした。現在、66万人以上のシリア難民が流入しているため、9人に1人がシリア難民という状況で、受け入れコミュニティの経済的負担も大きくなっています。ヨルダン赤新月社は、避難生活が長期化している難民の保健や衛生促進、難民キャンプの外で暮らす難民への住居支援、受け入れコミュニティでの貧しいヨルダン人への家計支援などを実施しています。



ヨルダンのコミュニティで活動する高原看護師

イラク

国内避難民の厳しい生活を支える

2014年6月以降、激しい武力衝突の続くイラクでは、国内で避難生活を余儀なくされている人が約320万人に達しました。加えて、24万人以上のシリア難民も生活しています。そのほとんどが、廃墟ビルなどの非公式な住居に暮らしており、十分な支援を得るのが難しい中で生活をしています。イラク赤新月社は、国内避難民が増え始めた直後から、救援物資の配布や医療提供をおこなっています。



イラク、ドホークのカンケ国内避難民キャンプ。タンクに水を汲みにくる子どもたち©イラク赤新月社

2015年10月には、コレラ感染が広がったため、コレラ予防のための衛生促進や水の浄化を行い、医療班を派遣して患者の治療にあたりました。



セルビアでモハンマドちゃんを抱え看病する母親©Olav A. Saltbones/ノルウェー赤十字社

住居を追われ、避難しながら生きていくのは過酷です。3人の子を抱えるある一家は、着の身着のままシリアから逃れてトルコを抜け、エーゲ海を渡るのに何度も挑戦し、5回目によくギリシャに渡ることができました。マケドニアを越え49日間かけてセルビアまで到着しました。

3歳のモハンマドちゃんは過酷な旅のため体調が崩れ、病状が重くなるばかり。モハンマドちゃんのお父さんは「どこまで行けばいいのかわからない。ただ、今はどこかモハンマドを治療してくれる国までいかなければ」と不安が尽きません。

平成27年度、皆さまからいただいた中東人道危機救援金は、3月11日現在で4300万円になりました。ありがとうございました。

日本赤十字社は、各国赤十字社の中東人道危機に対する救援活動を支援しています。今なお緊急事態が続いている、継続的な支援が必要です。

引き続き、みなさまの温かいご支援・ご協力をよろしくお願ひいたします。

日赤 中東

検索

<http://jrc.or.jp>